



35年目のラブレター ～5月17日(火)校長講話より～

みなさん、おはようございます。いよいよ今週は中間テストですね。毎日の努力が発揮されることを願っています。それでは、これから校長講話を始めます。

今日のお話はこの人を取り上げます。西畑 保（たもつ）さんといいます。隣は奥様です。

一昨年（2022年）の3月、当時84歳の西畑さんは、夜間中学を卒業し、人生初の卒業証書を手にしたことが大きな話題になりました。

「夜間中学」とは様々な理由から小中学校に行けなかった人が、仕事が終わった夜に学んでいる教室です。西畑さんのような高齢の方もいれば、外国籍の人、不登校だった人など様々です。夜間中学は長野県にはありませんが、全国に30数校あります。

西畑さんは卒業式のインタビューでこう言っています。

「残念やな。もっと勉強したいな」

今日の問いは、「84歳の西畑さんを学びに向かわせたものは何だろう」です。



西畑さんの人生を紹介します。

西畑さんのお父さんは炭焼き職人でした（今は冬の燃料と言えば石油やガスですが、それが普及する前は炭でした）。村の中心部から10kmも離れた山奥の小さな炭焼き小屋で、家族7人で暮らしていました。両親とも、夜明け前から夜遅くまで炭で真っ黒になりながら一生懸命働いていましたが、いつも貧しくて、お母さんは西畑さんが7才のときに病気で亡くなりました。

五人兄弟の長男でもあった西畑さんは、家計を少しでも楽にするため、山で和紙の原料の雁皮（がんび）の皮を採り、干して売っていました。コツコツお金をためましたが、とても大事なお金なので学校に行くときも袋に入れて肌身離さず持っていたそうです。あるとき教室で落としてしまいます。袋は見つかりましたが、「ぼくのです」と名乗り出ても、先生は信じてくれない。『西畑がそんな大金を持っているはずがない』と言うのです。そして「嘘をついた罰」として廊下に立たされます。級友にも泥棒と言われます。この日以来、西畑さんは学校には行かず、お父さんの仕事を手伝い、12才になると本格的に働きに出ました。つまりほとんど勉強はしなかったのです。

14才、食堂で働き始めます。ここでは先輩からのいじめを受けました。西畑さんが読み書きできないことを知った先輩が、メモを書いて買い物を言いつけるのです。それもわざわざ難しい漢字を書きます。西畑さんが困るのを見て、楽しんでいたのでしょう。また、電話を受けるのもつらかったそうです。電話を受けてもメモが取れずに先輩から怒鳴られ布団の中で何度も泣きました。

いくつもの職を転々とし、やがて奥さんと出会い結婚します。でも、自分は読み書きができないと打ち明けられないまま、半年が過ぎた頃、ある日、回覧板にサインを求められてバテてしまいます。西畑さんの文字にならない字を見たときの奥さんは驚きました。でも、「つらかったやろ。これから一緒にがんばろう」と言ってくれました。

奥さんは、銀行に役所、どこに行くときも一緒に行ってくれました。字を書く場面では、代わりに字を書いてくれました。やがて西畑さんは、「いつか感謝の気持ちを奥さんに手紙で伝えたい。だからどうしても字を書けるようになりたい」と思います。

ある時、仕事帰りの夜遅く、中学校から自分より年上の人たちがゾロゾロ出てくるところに出くわします。『何をしているんだろう』と気になっていて、あるとき思い切って声をかけると『誰でも、何オでも学べる夜間学級というのがあるんや』と言うのです。“これや！”と思ったそうです。

西畑さんは夜間中学に入学します。年齢は64歳。

学校生活は「あいうえお」を書く練習から始まりました。先生が作ってくれたプリントで読み書きを練習するのですが、何度も何度も繰り返し書かないと身につかず、苦勞しました。特に年齢のせいか一度覚えたと思ってもすぐに忘れてしまいます。まさに死にものぐるい。半年経つと、住所と名前が書けるようになりました。数年経つと、たいていの漢字は読めるようになり、新聞を読むことが日課になりました。

そんなある日、「60才のラブレター」という懸賞企画が目にとまりました。はがきにこう書いて応募しました。「僕は今、夜間中学校で勉強をしています。勉強が出来たら、苦勞をかけた、君にラブレターを書こうと思っています。君は読んでくれると思います。これからずっと君と一緒に長生きしたいです」



それから数年後の71才のクリスマス。西畑さんは「改めて、手紙という形で思いを伝えたい」と初めてのラブレターを奥さんに贈ります。便せん6枚にわたる“大長編”。受け取った奥さんは、「ラブレターじゃなくて、ただの手紙ね」と笑って受け取りました。その目には涙が浮かんでいました。うれしかったのでしょうか。

その後も、西畑さんは学校に通い続け、3通目のラブレターにはこう書きます。「これからも二人で一日でも長生きしたいですね。今度生まれ変わったら又君と出会いたいです」

そう願ったのもつかの間、クリスマス目の夜、奥さんは帰らぬ人となりました。西畑さんはすごく落ち込みました。でも、そんな西畑さんを奮い立たせたのは、葬儀に来てくれた夜間学級の先生や級友たちでした。「みんなの顔を見たら、“冬休みが明けたら、学校に行こう”と思えたんです。妻もぼくが学校で学ぶことを喜んでくれていました。だったら通って、しっかり卒業することが一番、妻の供養になると思ったんです」学校に復帰した西畑さんは、それまで以上に勉強しました。文化祭で屋台を出し、修学旅行にも行きました。そして一昨年の3月、晴れて卒業式を迎えました。



(実際の映像があるので見てみましょう)

卒業の日、西畑さんは言いました。「残念やなあ。もっと勉強がしたいなあ」と。

今日の問いに戻ります。”84歳の西畑さんを学びに向かわせたものは何だろう”

西畑さんにとって学ぶことの目的は、「いつか感謝の気持ちを奥さんに手紙で伝えたい。奥さんの供養のためにも卒業すること」でした。

今日のまとめです。皆さんに問います。「私にとって、学ぶことの意味や目的は何だろう」簡単な答えではありませんが、それが見つかるといいですね。

これで校長講話を終わります。

5月11日からの家庭学習強調週間・旬間&メディアコントロール旬間(南宮中NNG計画)へのご協力ありがとうございました。引き続き、ご家庭での支援をよろしくお願いいたします。

~~~~ お願いとお知らせ ~~~~

- ◆6月4日(土)北信陸上・5日(日)卓球の郡市予選会を皮切りに、中体連の夏季大会が始まります。保護者の皆様には、様々な面でご協力をいただきますが、よろしくお願いいたします。特に、保護者の観戦や駐車場等については、顧問からの通知や連絡等でご確認をいただき、スムーズな大会運営ができますよう、重ねてお願いいたします。
- ◆すでに家庭通知でお知らせしておりますが、6月16日(木)は感染症対策を行いながら、授業参観・PTA講演会・学年PTA・地区懇談会を行います。今年度も地区懇談会を学校で行いますので、ご参加ください。